



履歴書・志望理由書をもとに面接を考えよう!!

面接試験について

専門学校進学希望者の推薦入試の出願が10月1日、就職希望者の書類受付が10月5日から始まることで、出願書類の清書や面接練習に取り組んでいる生徒が多くなっています。面接試験について今一度確認していきましょう。

○ 履歴書、志望理由書や活動報告書をよく読んでおくこと。

当然のことながら、会社や学校に提出した書類から面接試験で質問される場合が多いです。質問に対して、棒読みで、一字一句、履歴書や志望理由書と同じことを言っても、丸暗記と判断され評価を下げる結果になります。特に志望動機は、自分の考えていることを、言葉の言い回しに注意して、自分の言葉で面接官に伝えることが大切です。

提出した書類のコピーを読み返しておくことも大切です。提出した際に気づけなかった表現の足りない部分が見つかる場合があるので、当日までに補足・説明できるように準備しましょう。特に就職希望者の履歴書の資格取得・趣味・特技・校内外の諸活動の部分は、箇条書きのため、面接の際、詳しく聞かれてもあわてないように準備をしておくことが必要となってきます。

○ 面接では答えた内容が大事です。同じように印象も大事です。

面接試験で非常に内容が良い場合は、内定や合格に近くなるでしょう。その場合、礼儀やマナーが若干失敗したとしても大きく不合格や不採用の判断にならないでしょう。しかしながら、第一印象が芳しくない場合、短い面接時間の中で、印象を覆すのは困難となります。そのため、身だしなみを整え、笑顔で面接に臨むように心掛けましょう。入室する際、ドアを開けてから面接官の前に立つまでの様子で印象が変わります。意識してみましょう。

また、考えもしなかった質問が出て返答に窮したり、面接自体が思うように行かない場合もあります。そのような時でも、最後まで諦めずに粘ることが大切です。

○ 控室での待ち時間に注意すること。

自分の将来を左右する試験のため、緊張するのは当たり前です。程よい緊張感を持って、面接試験に臨みましょう。面接の順番が後になった場合は、控室で待機するようになります。待ち時間中、ずっとスマートフォンを操作していたり、気疲れして居眠りをするのがないよう行動には注意してください。控室での行動や態度も会社や学校側に見られていると思ってください。

高校新卒者の求人について

厚生労働省から7月末現在の高校・中学新卒者のハローワーク求人状況が出されました。調査結果によると高校新卒者における求人数は、前年同期と比べると24.3%の減少、求人倍率では2.08倍と昨年度より0.44ポイント下回っています。業種別にみると「宿泊業・サービス業」で49.6%、「製造業」で28.8%と減少しています。福島県内の求人数は20.4%減、求人倍率は1.68倍と昨年度より0.21ポイント下回っています。新型コロナウイルスによる経済活動の停滞が主な要因と考えられています。

このように例年と比べると、求人倍率は1倍を超えているものの求人件数・求人数とも大きく落ち込んでいます。この状態がいつまで続くか先行きが読めない状況です。3年生は、試験日までしっかりと準備をし、万全の態勢で試験に臨みましょう。1・2年生で就職を考えている生徒は、就職してから、キャリアを積まずにやめしまうと次の希望する職場にすぐに就けない状況がありえます。ですから、3年生になって就職希望の会社を探す際に、自分はどんなことが好きで、何をやってみたいのか、何が得意なのかをしっかりと見極めるために自己理解を深めていきましょう。

進学について考えよう

目的意識を持って進学先選びをすることが、キャリアデザインの第一歩となります。進路先の学校生活で、目的意識を持って積み重ねる経験が、将来の生き方に大きな影響を与えます。自分が納得のいく進路先を見つけましょう。

○ 進学する理由を自分なりに答えられる「言葉」を見つけよう！

「なぜ進学したいの」「進学先で何を学びたいの」と聞かれたときに、自分の答えを明確に話せるようにしましょう。自分のやりたいことが見つかることは、志望校選びのポイントにもなります。目標とする志望校のレベルを高く設定し、進学に対する目的意識を高めることが大切です。

○ 進学することは、“より深く、学ぶこと”です。

本校の生徒は学校型推薦での受験が多いため、将来何をやりたいかを明確でないまま受験をすることは、志望理由書の内容が定まらないため不合格につながりやすいです。自分の夢や将来の展望を考えながら、自己理解や進路研究を深めることが大切です。

今現在持っている夢や希望が、進学先でより深く学ぶことによって、当然のことながら変更することもあり得ます。大事なものは、自分が本気になって学問や技術を追究しようとする姿勢です。

○ 「学ぶ」ことはなぜ？

大学や専門学校で学べるのは、自分が学びたいと思っている分野特有のものの見方や考え方を“専門知識”です。専門知識を身につけることによって、現代社会の問題や矛盾を解決していく手がかりとなっていく、個人や企業の社会貢献へとつながります。大学や専門学校での学びは、入学後も継続的に学ぶことで、その道のプロになる基礎を身につけることを目標としています。

社会人基礎力について

企業が求めるものは、「専門的知識・技術よりも、社会人基礎力を重視する」といった場合が多くなってきています。社会人としてのマナー、一般的な教養をはじめ、直面する問題を解決しようとする能力、他者と上手にコミュニケーションが取れるかなどです。では、こうした社会人基礎力は、どのようにして身につくのでしょうか？

学校行事や委員会活動、部活動といった普段の学校生活の中で、話し合いを通して、意見や方向性を一つにまとめるということを行っています。お互いの意見を尊重し、意見をすり合わせることによって、より良い結論が出てきたのだと思います。これが問題解決力やコミュニケーション能力の向上へとつながっていきます。

こういった日々の学びの繰り返しから、言葉遣いや身だしなみといった礼儀やマナーが身についていくものであり、普段の学習活動を通して一般的な教養が蓄積されているのです。

卒業後、就職する生徒は当然ですが、進学する生徒もいずれは就職し社会人となるわけですから、高校生活の中で基礎力を身につける努力をしていきましょう。

社会人基礎力の3つの能力

『前に踏み出す力（Action）』

経済産業省「社会人基礎力」HPより

～一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力～

『考え抜く力（Thinking）』

～疑問を持ち、考え抜く力～

『チームで働く力（Teamwork）』

～多様な人々とともに、目標に向けて協力する力～